資料１

小グループ報告用シート

Ａ班	検証する項目：情報共有⇒はぐくむ条例はどこまで周知されている？

１．第２回はぐくむ委員会以降に活動した内容

９月　　17 日	検証項目をどうするか？地域運営組織ができてから評価ができるのでは？！
10 月　　11 日	すこやか橋本まなびの日　出展打ち合わせ　（何をするか？）
11 月　　５日	ランチミーティング　アンケート項目の検討
11 月　　14 日	景品のシール貼り、最終打ち合わせ　缶バッチの方法　等
11 月　　23 日	前日準備
11 月　　24 日	まなびの日　一日出展　アンケート　説明　缶バッチ　頑張りました！！
12 月　　１日	平木市長と橋本市の未来を語る女性の会　パンフレット配布　条例説明
３月　　10 日	課題の打ち合わせ　次年度に向けて！！前向きな検討！！

２．令和元年度中に達成できたこと、調査した内容、実施した取組み　　など

11 月 24 日（日）「すこやか橋本まなびの日」にブースを設けていただき出展しました。
アンケートの実施。条例の認知度を確認。また、市が提供する情報の入手方法は？！
どんなまちになってほしいか？！等アンケートを実施しました。来場者の多くが子育て世代であり、30 代、40 代の子育て世代に対して、アンケートが実施できたことは、大きな収穫です。
また、子どもたちが缶バッチを思いのほか、喜んで作っていたことが印象的でした。
缶バッチを見るたびに、まなびの日を思い出してくれればと思っています。今回実施した、
「どんな橋本市にしたいか？！」と言った問いは、普段、未来の橋本市の姿に、思いを馳せることのない人にとって、橋本市の未来について考えるキッカケになったのではないかと思います。
個々人の将来に目を向けることはあっても、橋本市、ひいては日本の未来を思い描く視点を持ってもらえるだけでも、よい機会であったと思います。　引き続き、来年度も出展を希望します。
★予算がないなか、多くの皆様のご協力を頂きました。ありがとうございました。
＊景品の防災シートは、「欲しい！」との声も聞かれ、防災グッズは広報活動に使えます！！

３．令和元年度中に達成できなかったこと

対外的にアピール活動がほとんどできなかった。

４．令和２年度以降、グループとして活動・調査・研究・実施・達成したいこと　　など

情報共有の「情報」の部分ですが、まなびの日において、アンケートを実施し、まずは条例の存在、名前だけでも知ってもらうことが重要である！と思っていましたが、やはりその前段階として、**なぜ、橋本市に自治基本条例が必要であるのか！！**その情報共有、情報提供が大事であると考えました。
少子高齢社会は、誰しもが知る事実ですが、実際にその「実態」を正確に把握できているのか！！
その実態を正確に把握でき、橋本市の未来の姿を把握することができたのなら、協働のまちづくりに興味をもってもらえる人も増えるのではと考えます。特に、子育て世代は、子どもたちが活躍する次世代へ「豊かな橋本市」を引き継ぐ責任があります。知ることにより、興味がわきます。
今までお客様であった住民から、公、市に対して主体的に働きかける市民へ。
最終的には「積極的に参画してくれる市民」が理想ですが、その前に橋本市や協働、自治に興味を持ってもらえる情報を提供する。
①　どのような情報を提供、共有するかの検討（橋本市の未来年表・少子高齢化の未来予想図）

小グループ報告用シート

② 情報を提供する場を設ける。

③ 興味を持ってもらう！！ 参画を促す！！

市民同士が話し合う機会・場を設け、様々な情報提供、共有、交換をおこなう。

人が人を呼び、仲間を増やしていけるような、キッカケを生む活動を実施する。

話し合いを通じて相互理解が深まる。一人一人の力は小さいが仲間が集えば大きな力となる。

次年度のまなびの日では、橋本市の未来予想図の展示、説明。時間・テーマを決め、話し合いができるスペースを設ける。引き続き、アンケートの実施。まなびの日のアンケートでは、２割の人が広報またはＨＰから情報を得ていました。興味を持ってもらえるような情報を検討し、広報、ＨＰへ掲載していければと思います。

また、橋本市議会議員の方より、はぐくむ委員会との懇談の実現に向け、具体的に話を進めましょう！と言っていただいております。議員の方々と意見交換できるような場を設けることができればと考えます。オールはぐくむ委員会で今後も取り組みたいと思います。

★ Ａ班　個人の取組み報告 ★

・どんなことができたか
・どんなことができなかったか
・来年度はどんなことをしたいかなど

【乾　幸八】
区長をはじめとし、様々なまちづくり活動に関わりました。活動をする中で、やはり「はぐくむ条例」の認知度は決して高くはない状況だと感じました。これからの活動を通して、はぐくむ条例の精神がもっと広く浸透することを期待します。

【遠藤　和美】
高野口こども食堂の参加手伝いをした。農家さんから米や野菜をいただいたり、バナナやヨーグルトを毎回提供してくれる人がいたりして、子どもたちは毎月楽しみにしていた。大人も 300 円で食べられる楽しみがあり、地域にとっていいことだと感じた。

【東　美樹】
なぜ、橋本市に自治基本条例が必要なのか！共生社会の重要性を、小学生でも分かるよう簡単に説明できるようにする。その為に、考えるキッカケになるような、橋本市の未来年表を作成したい。個々の得意分野を持ち寄り、より一層オールはぐくむ委員会で取り組む！多種多様な人の話を聞きたい。

【前田　陽一郎】
イベントでの活動への参加など、あまりできなかった（書籍（超高齢～）での勉強、研修への参加 程度）。来年度は、条例の認知度が低いと思うので、啓発活動の継続、条例の実効性の検討をしたい。

【森田　知世子】
まなびの日の参加で広報の課題や、来年度への手掛かりもつかめたように思う。メンバー同士が集まることで交流ができ、繋がれる機会にもなった。来年度は、人の集まるところに出かけて行って条例を知ってもらい、興味関心を持ってもらえるように活動したい。

小グループ報告用シート

Ｂ　班	検証する項目：協働のまちづくり

１．第２回はぐくむ委員会以降に活動した内容

１１月　１４日	すこやか橋本まなびの日のブース出展のための準備
１１月　２４日	すこやか橋本まなびの日ブース出展

２．令和元年度中に達成できたこと、調査した内容、実施した取組み　　など

すこやか橋本まなびの日に出展したことで、多くの人の意見を直接聞き取りができた。また、はぐくむ条例を知る機会の提供の一助となった。

はぐくむサポーター数、はぐくむ条例出前講座の実施状況、職員研修の事前・事後アンケート結果を確認した。

聞き取り調査・アンケート等で、はぐくむ条例の認知度・意識などは、決して高くないことがわかった。しかし、市民の変えていきたいという思いや、行政の協働に対する前向きな意識の変化は、感じた。

３．令和元年度中に達成できなかったこと

「協働のまちづくり」を進めていくために、何を検証するのか、何をしたら良いのかなど、具体的な取り組みに進まなかった。協働を意識していけるような働きかけを、職員や市民へ話し合いの機会を設けるような考えに至らなかった。

４．令和２年度以降、グループとして活動・調査・研究・実施・達成したいこと　　など

・職員アンケート結果とすこやか橋本まなびの日の聞き取り調査をもとに分析研究する。
・職員とはぐくむ委員（市民）が「協働のまちづくり」に向けて、具体的にどのようなことが「協働」なのかを話し合う場を持ちたい。
・Ｂグループとして或いは、はぐくむ委員全体として、小さな「課題」について判断する材料を自ら集めて、これからの橋本市について自分達で「しっかり決めて」「自分達で担う」成功体験を積み上げていきたい。

小グループ報告用シート

★ B 班　個人の取組み報告 ★

・どんなことができたか
・どんなことができなかったか
・来年度はどんなことをしたいかなど

【上田　ひと美】
「はぐくむ条例」についてしっているかどうか訊ねてみたところ、（名前は聞いたことがあるという程度）という方が多かったので、今後は具体例等を示しながら、市民と行政の協働を、より日常生活に近いものにしていきたい。

【岸田　昌章】
昨年の１１月５日に、川北秀人氏の講演に参加。その後、氏の編著「SDGs 時代のパートナーシップ」を読む。すこやか橋本まなびの日へ、はぐくむ委員会として出店調整。２０２１年の国民文化祭にむけて官民の調整を行う。

【田村　亜美】
鳥の目で、はぐくむ条例を取り巻く全体を見回せた。集まっての話はできず、虫の目で、具体的な取組みができなかった。来年度は、各自のフィールド・地域に降り立って考えた視点からの取組みを増やせればと思う。

【戸島　浩子】
紀見東中学校区の保護者に対して交流会や小学校教諭との交流会を行った。保護者の希望や不安を行政に繋げる事が出来なかった。小さい事からで良いので、保護者と行政を繋げたり温度差を埋めたりするきっかけを作りたい。

【藤田　佐紀】
「協働」の考えを取入れ、各地区の子育てサークルの役員にアンケートをとって運営上の工夫や課題を共有した結果、役員と公民館職員等の役割分担に関する課題が挙げられました。今年度は改善の提案で終了しました。

小グループ報告用シート

Ｃ班	検証する項目：市民参画

１．第２回はぐくむ委員会以降に活動した内容

１月　１９日	Ｃグループ全員＋東委員で協議（平家委員の会社にて）
３月　　日	新型コロナウイルスの影響によりテレワークにて協議

２．令和元年度中に達成できたこと、調査した内容、実施した取組み　　など

・参加度チェックリスト「自分にピッタリなまちづくり」の作成　（別添資料あり）
　→「まちづくり」は敷居が高いと感じる方も多いことから、気軽に参加してもらう手助けに
　　なるよう作成しました。
・「委員会の進め方」「広報の方法」「市民や市職員の意識改革」「協働の規模や範囲」
　「市民の意見の収集方法」「市民それぞれによる市とのかかわり方」など多岐にわたって協議を
　行いました。
・グループ別に活動体制を導入できた。学びの日などの他の発表の場で知ってもらうための発信が
　できた。
・様々な立場の方がどんなことを考えてられるか、横のつながりを持てたと感じた。

３．令和元年度中に達成できなかったこと

・検証の分担を明確にし、計画的に検証を行っていくこと、検証材料の選定。
・はぐくむ条例にうたわれているような条例の実効性の検証（市の事業について市民との
　協働ができているかについて）検証が難しかった。
・今年度の活動の計画を立てることができなかった。
　（大元の計画が立てられれば、準じて小グループでもやっていけるのではないか）
・バーベキューの実施。

４．令和２年度以降、グループとして活動・調査・研究・実施・達成したいこと　　など

・参加度チェックリスト「自分にピッタリなまちづくり」の深耕
・市民が参加できる「まちづくりのための勉強会」の実施（定期的に毎回様々なテーマで）
・市職員の意識改革が必要で、その点で市民委員が果たす役割は大きい。
　状況把握や意見収集のためにも市職員と市民が交流できる場を設けたい。
・市民の関心の高い市の事業分野について具体的に市民との協働ができているか検証する。
・発信すべきことや報告を公開できることはFMはしもとなどメディアに協力してもらい
　計画的に発信する。外部の事業の参加や発表を計画。目的を明確にして予算取りして効果的に
　事業を行っていく。
・橋本市の他の計画と整合性をとっていく。
・委員会とグループの活動の組み立てを早い時点で計画する。
・条例の周知や意見の吸い上げのためには、色々な場面や生活の方が参画できるよう、
　たくさんの切り口が必要かと思う。生活や仕事だけでなく趣味の集まりにちょこっとの時間を
　活用すると壁が高くなく交流できるのかも。

小グループ報告用シート

★ C班　個人の取組み報告 ★

・どんなことができたか
・どんなことができなかったか
・来年度はどんなことをしたいかなど

【浅野　匡洋】
委員や家族と自治を考えることができた。知人に当条例について話題提供した。長期総合計画や市政の理解が足りなかった。知人に積極的に意見を聞けなかった。全体的なゴールに対してどこに取組むのか明確にしたい。

【大山　善久】
委員同士の絆が深まる一年だったと思います。委員会の目的でもある市民と行政の協働ができているかの検証は道半ば。来年度はより具体的に市民の関心が高い事業について旗振り役となり協働の推進や検証をしたいです。

【平家　利也】
どのようなまちを目指しているかが見えてこない中、条例をどう活かすか、何をチェックし判断するかは困難に思う。一人でも多くの市民に条例の存在、意味、必要性などを考える機会を設け、市民がこれからの橋本市を考える機会の一助となる事業が出来れば。

【薮　祐梨子】
たくさん意見交換ができました。来年度は、まちづくり参加度チェック表をつくって、市民が自分なりのまちづくりへの参加方法を見出すことをお手伝いや、市民のための「まちづくり勉強会」の実現も目指したいです。

【山本　光子】